

中国における環境分析の合弁会社の設立及び清華大学との協力協定締結について

平 20 年 11 月 14 日

いであ株式会社

いであ株式会社は、中国で水処理・環境エンジニアリングの事業をしている「中持(北京)環境発展有限公司」(許国棟董事長、資本金 1000 万元)と合弁で、環境分析会社「中持依迪亜(北京)環境研究所有限公司」を設立する。資本金 300 万元(約 4500 万円)、出資比率は両社各 50%である。

主にダイオキシン、PCB 等の残留性有機汚染物質(POPs)や環境ホルモン物質の調査、測定分析、受託研究開発を行う計画で、既に施設設備の整備や技術者の採用・技術研修はほぼ終了しており、年内に設立登記を終え、2009 年当初から営業を開始する。

分析設備の一部は、清華大学(北京市)内のものを活用することになっており、去る 11 月 8 日、いであ株式会社と清華大学は、清華大学(北京市)にて『高水準「ダイオキシン分析実験室』の共同建設管理に関する協力協議書』に署名した。内容は下記の通り。

協議書名称：『高水準「ダイオキシン分析実験室』の共同建設管理に関する協力協議書』

署名者：日本：いであ株式会社 代表取締役会長 田畑日出男

中国：清华大学环境科学与工程系 教授・主任 余剛

(清華大学環境科学与工程系 学部長)

協議書(合意書)に含まれる主な内容：

1. 新たな産学協力関係を創設することを通して、国際的にトップレベルの品質管理・技術力を有する「実験室」を清華大学内に構築し運営を行う。学内外のダイオキシン類及び関連物質に係る調査、分析、研究を行う。
2. 「実験室」にて中国国家計量認証及び実験室認証を取得する。
3. いであ株式会社が中国に設立する『中持依迪亜(北京)環境研究所有限公司』がこの「実験室」を運営管理する。(依迪亜=いであ)

また、「中持依迪亜(北京)環境研究所有限公司」には、いであ側から田畑日出男代表取締役会長、松村徹執行役員が、役員(董事)として経営に参画し、中国側役員 2 名とともに経営陣を構成する。職員は、いであからの 1 名を派遣常駐させ、分析技術の統括と品質管理を行い、この指導のもと、6 名の現地技術スタッフにより運営する。

【これまでの経緯】

いであ(株)は、数年前から、JICA(国際協力機構)や NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)の協力事業を通じて、中国におけるダイオキシン分析技術及び精度管理システムの構築を支援してきた。また、日中友好環境保全センター、北京大学、清華大学、中国科学院生態環境研究中心等との技術・研究交流の中で、研究者、技術者を静岡の環境創造研究所に招聘し、ダイオキシン分析の技術研修を実施してきた。

【当面の見通し】

ダイオキシンの分析は日本では一段落した感があるが、中国ではまだまだこれからの問題である。国内では一検体当りの分析単価が5～8万円程度まで下落しているが、中国では8,000～10,000元(12～15万円)で実施されているのが現状である。

施設の処理能力は年間500～600検体であるが、設立初年度の2009年には200～300検体の受注を見込んでいる。

